神社の杜（六十二）

『杜が危ない「楢枯れ」』

片柳　茂生

近年、各地で広がる「楢枯れ」という現象をご存じでしょうか。これは、カシノナガキクイムシという甲虫が媒介するナラ菌によってミズナラ等が集団的に枯れてしまう現象です。また、この虫は細い樹よりも年数を経た太い樹を好む習性があります。

話には聞いていましたが、御岳山では見られなかったため、結構他人事のような気でいました。ところが昨年の夏、突然と言ってよいのか、ついにと言ってよいのか、起こってしまったのです。と、言ってもまだまだ数えられるくらいの被害でした

イラスト：たいやきジロー

が、神社の杜にはミズナラの大木が多数存在し、それらはこの虫の格好の餌食となってしまうのが心配されました。

心配は現実のものとなってしまいました。西東京市の講中で造園業を営むO氏が、里の被害の状況を看て御岳山の事も危惧され、何度も山に足を運び御師を通して薬剤の提供や助言をして下さいました。それにもかかわらず今年の夏、杜はこの虫の猛威に襲われあちこちの木が紅葉したように茶色くなってしまい、被害にあった樹を数えられる状態では無くなってしまいました。

しかしこれは自然のなす事、いずれ杜は再生されるはずです。本来自然は、太い樹が倒れれば、それまで大樹の陰で育つことを抑制されていた幼樹が、たくさんの陽を浴びすくすくと育つ事で杜は年数を経て再生するはずなのですが、今御岳山ではニホンカモシカやシカが増えており、これから伸びようとする幼樹はそれらの動物に皆食べられてしまい、いつ迄経っても樹の育たない空間が杜の中に存在する事も考えられます。また、クマやイノシシは秋にミズナラなどのドングリをたくさん食べて冬を越します。そのドングリがなければどうなるでしょう。動物は畑や人家のそばに来て餌を求めることが考えられ、このままでは山の生活さえも脅かされる事になりかねません。

もっと怖いこともあります。楢枯れを好むカエンタケが発生してしまう事です。カエンタケは発生が少なく、めったに出会うキノコではありません。しかし、非常に毒性が強く食べることはもちろん素手で触るだけでも皮膚炎を起こしてしまうというキノコです。赤いキノコを見つけたら絶対に触らないことこれが肝心です。

たった5ミリにも満たない虫によって、御岳山を取り巻く自然環境が大きく変化してしまう現象が今起こりつつあります。もう私たちの力だけでは無理です。カシノナガキクイムシの天敵よ早く現れ、そして杜を救ってください。そうマイタケがいつ迄も採れるように。

あとがき

世界各国から異常気象の知らせが届きます。今年も地球温暖化は止まる気配すらなく、氷河融解は海水面を上昇させ、大気乾燥が大規模火災を導き、豪雨は土砂崩壊・大規模浸水を起こしています。人類は度々自然災害を経験していますが、発生頻度は現在の様に頻繁であったのでしょうか。

我が国では古くより、自然災害は神の怒りであると捉えられてきました。災害が発生すると朝廷は荒ぶる神に対し丁重な祭祀を行い、神の怒りの鎮まること、再び平穏な季節が訪れることを祈ってまきました。災害を経験しながらも、豊かさの中に平穏な生活がもたらされているのは、やはり大神のご加護によるものと思います。

祭典を行う前には斎戒（さいかい）という禁欲的な時間が設定されます。身体的な清潔さはもとより、慎みの時間の中で平静な心を保つように過ごします。気候変動の一因が人間の経済活動にともなう環境破壊原因であるならば、荒ぶる自然への畏怖の心を持ち謙虚に過ごすことが必要なはずです。

何れの神の怒りか、世界的な異常気象が沈静化することを願ってやみません。

最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。また鶴巻育子様玉稿を有難うございました。

令和五年　九月二十九日発行
〔年二回発行・非売品〕
編集　武蔵御嶽神社
TEL ○四三八（七八）八五○○
FAX ○四三八（七八）九七四一
http://www.musashimitakejinja.jp/
印刷　㈱成和印刷

武蔵御嶽神社公式ＳＮＳ

facebook

公式ホームページ

ＨＰ

instagram

X (Twitter)